

令和3年度 学校評価書【山形県立新庄神室産業高等学校真室川校】

教育目標

「校訓」(自律・誠心・挑戦)を根底に据え

- 1 課題解決のために自ら行動する力を育成する学校
- 2 一人一人の進路実現に向けたキャリア教育を実践する学校
- 3 心身の健康と安全に努める学校
- 4 地域の活性化に貢献できる学校
- 5 有益な情報の共有を図る学校

自己評価および学校関係者評価の基準	
A：達成	B：概ね達成
C：やや不十分	D：不十分

番号	評価項目	今年度の成果と課題	自己評価	次年度への改善点	学校関係者評価	学校関係者評価委員の意見・要望
1	教育方針 学校経営	<ol style="list-style-type: none"> ① 教育方針や学校経営に対して、生徒・保護者から評価が前年度同様に高く、関心や理解が得られている。 ② 本校とのキャンパス制の実施については、コロナ禍による制限を受けたが、「キャンパス制運営委員会」を中心に検討し、可能な限り交流活動を行った。 ③ 町からの支援を受けながら分校としての教育活動を創意工夫しながら充実させてきた。そうした経緯もあり、真室川校の教育活動に対して地域の理解・共感が得られているととらえている。 ④ キャリア教育が系統的に実施されており、全職員による連携した指導体制が確立された。 	B	<ol style="list-style-type: none"> ① 「一人ひとりがキラリと光る真校」づくりの実現に向けた取り組みの維持・継続と、地域に信頼され活力あふれる教育実践を展開するとともに、引き続き真室川町と連携を密にしながらPR活動や地域貢献活動を積極的に行う。 ② 少人数体制による教育活動をより強固にし、生徒と向き合う時間の確保に努める。会議の削減等に取り組み業務の整理統合を推進する。 ③ 「真室川校魅力化に係る地域連携協議会」の協力を得ながら町の文化活動や小中学校との連携をさらに深め、真校の教育活動をより魅力的なものとしていく。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・「真室川校魅力化に係る地域連携協議会」と連携して、真校の魅力ある教育活動や生徒の活躍を積極的に発信して学校の認知度が向上した。引き続き地域の方々とのつながりを大切にしながら様々な地域貢献活動を行っていただきたい。 ・少人数に対する教育体制が整備されている。問題を抱える生徒が少なくないので、今後も小規模校の利点を活かしながら生徒と接し、個々の能力を伸ばす指導をしていただきたい。 ・少人数体制のメリットを考え、様々な創意工夫を凝らした取り組みを実践することで、特色ある教育活動につなげていただきたい。
2	学習指導	<ol style="list-style-type: none"> ① ユニバーサルデザインの視点を大切にし、思考力・判断力・表現力を育む言語活動を積極的に授業に取り入れ、アクティブラーニングを実践することができた。 ② 新学習指導要領に基づいた学習評価の改善について職員の研修を深め、次年度に向けて準備を進めている。 ③ 朝学習等を使った学び直しと基礎基本の定着に注力し、丁寧に粘り強く指導することができた。 ④ 生徒の学習意欲を喚起し、平均80点以上の成績を持つ生徒の割合を高めることができた。 ④ 学習について困り感を持つ生徒に対して細やかな指導ができた。 	B	<ol style="list-style-type: none"> ① 中学校との交流をさらに深めながら、家庭学習習慣や基礎的・基本的学習内容の定着と学習意欲の向上を促す学習活動の研究と推進に継続的に努める ② 新しい学習評価に適合した授業展開や学習評価の具体的な在り方について、継続して研究していく。 ③ 個別面談を通して生徒の状態の把握に努め、必要な支援を行いながら出席率の向上を目指す。 ④ 自学ノートの活用及び朝学習を継続し、学習習慣の確立や学習の遅れがちな生徒への支援の在り方を検討する。 ⑤ 図書館利用の実践例を参考に、魅力ある図書館作りを研究し利用拡大を図る。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎学力の向上のためには「自学ノート」の定着が必須であると考え。家庭の協力を得ながら生徒たちに学習習慣が身につくように指導していただきたい。 ・オンライン等の基盤整備を推進し、家庭学習の定着や学習意欲の向上に関連するような取り組みを期待したい。 ・質にこだわりすぎず、まずは内容が何であっても可とする大らかな目を持って自学の習慣づけを図ってみたい。
3	進路指導	<ol style="list-style-type: none"> ① 「キャリア学習講座」や「ソーシャルスキル学習講座」は進路意識の高揚に一定の成果があった。 ② 町と連携したインターンシップや「進路を考えるDAY」などの進路学習会をとし、多様化する進路に対し、生徒一人ひとりに対応する指導体制を維持・継続できている。 ③ 進路だよりを発行し、進路に関わる情報提供ができた。 ④ 多くの教育活動においてキャリア教育を軸に展開し、学習意欲及び進路意識の高揚、さらに地域理解・貢献につながった。 ⑤ キャリアパ・スポーツ導入に伴い、キャリア教育プログラム(冊子)の見直しを図った。 	B	<ol style="list-style-type: none"> ① キャリア教育を軸とし、3年間を見通した進路指導を、職員共通理解のもと推進する。 ② インターンシップのさらなる充実のために、魅力化コーディネーターとの連携を深めるとともに、町の資格取得支援を有効に活用し、キャリア教育のさらなる充実を図る。 ③ 早期に進路目標を明確にするために面談活動を細やかに継続・推進する。 ④ 進路だよりを継続して発行し、進路に関する情報提供を行っていく。 ⑤ 早期離職対策として、コミュニケーション力やソーシャルスキルの向上を目指した指導方法を検討する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・地元の事業所の協力をいただきながらキャリア教育の継続的な取り組みが行われていると感じる。引き続き将来地元で活躍できる人材の育成を期待したい。 ・「コミュニケーション力」は今後の進路が何であれ、非常に重要となる部分である。生徒たちが日頃から自主的にキラアップを目指していくような工夫が求められる。 ・進路指導に関しては心を砕いてくださっていると感じられる。今後とも生徒の身になった指導をお願いしたい。

番号	評価項目	今年度の成果と課題	自己評価	次年度への改善点	学校関係者評価	学校関係者評価委員の意見・要望
4	生活指導	<ul style="list-style-type: none"> ① キャリア教育に基づいた生活指導が維持できた。(日常のあいさつ運動、身だしなみ指導、問題行動・いじめ防止など) ② キャリア教育に基づいた生徒会指導が維持できた。(全校ボランティア、体育祭、真校祭、生徒集会など) ③ 縦割り班による活動が定着・機能し、学校祭をはじめとする行事及び諸活動で成果が上がった。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ① 現行の指導レベルを維持するため、年度初めに行っている「当校生徒指導の理念」の確認を継続する。また、生徒数等を勘案しながら、随時検討して生徒指導を行う。 ② いじめやスマホの利用について新入生に対する早期の指導を行い、問題行動の未然防止に努める。 ③ 縦割り班活動を継続し、様々な場面で取り入れ、学年間交流をとおしたコミュニケーション力の育成を図る。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な内容の早期指導、継続指導が十分機能していると思われる。 ・問題行動もなく行き届いた指導ができていると感じる。この状態が続くような指導をお願いしたい。 ・あいさつなどの声が少し小さいのは様々な活動に支障があるだけでなく就職等にも不利である。一層のコミュニケーション力の育成を図り、きちんと相手に伝える能力を身につけさせていきたい。
5	健康安全	<ul style="list-style-type: none"> ① 全校生への「命の教育」「薬物乱用防止」講話を行い、心身の健康について意識を高めることができた。 ② 職員会議時の生徒理解のための情報交換会やステューデント・サポート(SS)委員会を行い、特別な支援の必要な生徒の支援ができた。 ③ スクールカウンセラー(SC)の配置により、困り感を持つ生徒への手当てができた。 ④ 歯磨きの習慣化を目指し、校内でのブラッシングを励行した。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ① 眼科・歯科の受診率のさらなる向上を図る。 ② 学年での適時的なケース検討会を行い、特別支援の体制をさらに整える。 ③ 特別支援学校や外部支援施設との連携・協力体制の構築を継続検討する。 ④ スクールカウンセラーと連携し、生徒のシグナルの早期発見、早期対応に努める。 ⑤ 緊急連絡体制を周知徹底し、さらにメール連絡網「マ・メール」への加入促進を図る。 ⑥ 基本的な生活習慣を身につけさせ、健康管理の意識向上に努める。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭の協力も必要だと思われるが、スマホいじりやゲーム等の誘惑による生活習慣、生活リズムの乱れが学校での成績や健康面に現れる。規則正しい生活が送れるように引き続き指導をお願いしたい。 ・家庭との連携が不可欠な項目であるため、双方向の連絡体制を充実させることが重要である。 ・心の健康が一番大切なキーワードに思える時代、特に多感な十代の社会は複雑であろう。そういう中でSNSを巡る問題があると思われるので、注視していただきたい。
6	地域連携 その他	<ul style="list-style-type: none"> ① 今年度も真室川祭踊りパレードが中止となり、生徒が活躍する場がなくなったことは非常に残念で痛手だったが、全校ボランティアは2回実施することができ、生徒の勤労観を育成することができた。 ② 学校行事の様子やボランティア活動、校内でのあいさつ運動等の様子を、地域住民に知ってもらう手立てとして情報誌「ふきのとう」やホームページの更新を定期的実施できた。また町の広報誌でも「真校魅力だより」を掲載していただくことでPR効果が高まった。 ③ 就学支援金や資格取得支援、またスクールバス利用など、学校及び生徒に対して、町から大きな経済的支援を受け、充実した教育活動を行うことができた。 ④ コロナ禍の影響により、同窓会総会を開催することができなかった。引継ぎも行えず、来年度以降に課題を残した。 ⑤ 学校警備員が変わり、遅い時間帯に巡回してくれるようになったことで、施錠・消灯忘れがなくなった。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ① コロナ渦で生じた地域行事参加の空白期間を意識して、例年以上に丁寧に生徒の勤労観の育成に努める。 ② 魅力化コーディネーターとの連携をさらに密にし、学校の魅力化発信力を強化する。 ③ PTA活動について <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍においても、PTAの各事業が実施、またはそれと同等となるような成果が得られるよう方策を検討していく。 ④ 同窓会の引継ぎについて <ul style="list-style-type: none"> ・当番幹事同士の引継ぎが3年間途絶えているため、実施可能な行事が円滑に進むよう、担当者同士で連携を深める。 ⑤ PTA役員体制について <ul style="list-style-type: none"> ・来年度の会員数が大きく減少した場合に備え、役員体制を大きく見直すなど改善を講じる。 ⑥ 学校評価アンケートの集計作業について <ul style="list-style-type: none"> ・教職員・保護者双方の負担が軽減されるように、Google フォームを活用し個人で入力できるシステムにし、入力の手間が省けるようにする。 ⑦ 学校連絡システムの活用について <ul style="list-style-type: none"> ・今年度上がった学校連絡システム の加入率が下がらないよう、文書などを通じて手立てを講じる。引き続きシステムについて課員で研修し、複数で情報を発信できる体制にする。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア活動は真室川校の一番の特色であり、地域住民からの期待も大きい。今後とも継続した取り組みをぜひともお願いしたい。 ・コロナ禍のため真室川まつりパレードには参加できなかったが、継続して踊り練習を行い全校生徒が真室川音頭を踊れるというのは素晴らしい。地域からの理解を深めるためにも、踊り練習、ボランティア活動、あいさつ運動は継続して推進していただきたい。 ・部活動では東北大会に出場する生徒や各種コンクールで入賞する生徒が多数出たことは喜ばしい。もちろん生徒たち自身の努力もあるが、先生方の指導のお陰でもある。今後も生徒たちが様々な場面で活躍できるよう指導をお願いしたい。 ・コロナ禍の中でも可能な範囲で心を砕き、地域との連携を模索されているとわかる。それほど地域のことを思っていたいただけるのを嬉しく思う。今後とも地域との連携を宜しくお願いしたい。